

## GCS 国際グループ 嶺南地区(黄ジュンソク代表)における小松昭夫理事長講演

時間 2008年11月5日 12時~13時

場所 蔚山(うるさん) 広域市 ファーム高等学校



みなさんこんにちは。アニョハセヨ。今日は皆さんに会えて大変うれしいです。今日はアメリカの大統領の選挙です。今までと決定的に違う「チェンジ」というキーワードで選挙が行われています。

日本と韓国とはたいへん大きな災難を与えた歴史を持っています。私は日本人の一人として心より謝罪申し上げます。(大きな拍手)。

私は1944年生まれでして、戦後責任を皆さんとともに果たす世代です。韓国と日本は焼け

野原の中から、米国の蒔いた資本主義と民主主義の種が生えて、今日を迎えていると認識しています。またこの地は現代財閥の創業者が造船業、自動車産業を興された街ということで、世界的にも有名な場所です。このような街で皆さんとの縁ができたということは、GCSの歴史の中で新しい縁が始まったと認識しています。

天の時 地の利 人の和 この三つが重なって今日のときを迎えました。さきほど障害者の方々の演技に大変な勇気をいただきました。今日皆さんとお会いできたことに感謝しまして、私の挨拶といたします。

(HNS 研究所パワーポイント上映)

記念すべきときに、記念すべき場所で、皆様にこうしてお会いできることを心より感謝申し上げます。

さきほどの映像でもご紹介いたしましたように、現代財閥の創業者、北出身の鄭周永(チョンジュヨン)氏が501頭の牛を連れて韓国から北に渡られました。私はそのニュースを聞いてすぐ、チャーター便で北朝鮮との国境にある束草市を訪問し、市長様と会見後、500万円を桐の箱に入れて、独立記念館の朴維徹(パクイチョル)前会長のご案内によりまして、当時の韓国赤十字社総裁(前総理)に北朝鮮への支援金をお渡しすることができました。

韓国と北朝鮮の言葉には言い表せない苦難の分断国家の現実は、日本には非常に大きな責任があると考えています。その経緯と背景をよく研究し、三カ国の子孫と世界の未来に生かすシナリオをつくり、実現のために努力し戦後責任を果たすことが、私たちの世代に課せられていると思います。





私がこういうことに関心を持つことになったのは、今から 30 年前に初めて韓国に訪問し、当時は戒厳令でしたが、ある事件に巻き込まれたことがきっかけでした。

私は工業高校の機械科を卒業しまして、農業機械の研究に 8 年携わり、世界で初めての小型コンバインを 5 人で開発した、一人です。その会社が一部上場したにも関わらず倒産して、そして今の会社を起しました。

人口が 3800 人の小さな村で事業を起し、そこを拠点にして、今日をつくっ

てまいりました。初めての韓国訪問は事業も少し軌道にのったときで、業界の会でソウルを訪問し、そのときにタクシーの中である事件に巻き込まれたわけです。

理工系ということもありまして、ほとんど近代史については無知でありました。その後、自衛隊の元幕僚長であった海原治氏が松江で講演をされ、朝鮮韓国の方と交流をするためには、明成皇后の暗殺と、七奪ということをよく研究をしなければならないと話されました。創氏改名と、そしてもうひとつが言葉です。その後、独立記念館を何回か訪れ、いろいろ研究する中で、いろんな方との出会いがあって、今日ここで皆様にお目にかかれるようになりました。

その中でオウトピアという言葉に出会ったことは、大変な幸運でありました。ユートピアという言葉は理想であり、これは現実化はできない。しかし、オウトピアという言葉は、自分が人間という認識があれば必ずやらなければならないし、またやればできるという言葉に出会ったわけです。すなわち、対立の文化の上に華開いた文明から、共生の文化の上に華開く文明にチェンジする。これをオウトピアと理解しています。

日本の九州大分県に、菊池寛先生の「恩讐の彼方に」で有名になった洞門があります。加害者と被害者が一緒になって、歴史の評価に耐える事業を行う。そうすると怨念は、感激と感動に変わるといふ物語です。

加害者の子孫であるわれわれ日本人と、被害者の子孫である韓国北朝鮮の方々が、お互いの立場をわきまえて、子孫と世界人類のために環境問題と健康問題を解決するためには平和のステージを創ることから始める必要があります。

世界経済混乱のさなか、独島竹島問題、そして東海日本海問題は世界が知るところとなりました。いままさにオウトピアが実現する、あるいは実現しなければならぬときを迎えました。そしてそれは世界の人々に希望の光を提供することにつながります。これは韓国日本北朝鮮の人々が、人類がいままで持つことができなかつた永遠のアイデンティティを確立できる、輝かしい時代を迎えました。

上下の格差をなくし、論理的に議論する。この二つの条件で言論の自由を保障すれば、人類は必ず新しい未来を開く知恵を得ることができるといわれています。そのことをマクロビオティックの権威、久司道夫先生から教わりました。



現代財閥の創業の地で、米国初の黒人大統領が誕生する可能性がある日に、皆様との出会いができたことは未来に確かな光明が見えたと感じています。カンサハムニダ。

今日は新たなスタートです。次は私の街・松江で語り合おうではありませんか。



## 蔚山広域市

蔚山広域市(ウルサンこういきし)は大韓民国南東部に位置する広域市。総人口 109 万人。日本海に面し、釜山広域市から北へ 70km 離れている。韓国の広域市の中では一番面積が広い。区の部分は工業都市、郡の部分は農村も存在する典型的な都市・農村の複合都市になっている。

現代自動車のお膝元であり、自動車の生産高で大韓民国一位である。現代尾浦造船や現代重工業など現代グループの企業城下町でもある。また海岸沿いに韓国最大の石油コンビナートが広がり、工業都市の様相を示している。

## 鄭周永氏 現代財閥創業

独立後の 1946 年ソウルで現代自動車工業社(修理業)、翌年現代土建社(後、現代建設)を開業し、朝鮮戦争時には米軍の建設工事を受注した。朴正熙政権下で軍事基地、ダム、京釜高速道路、原子力発電所建設などの大規模プロジェクトを手がけ、1972 年には韓国で初めて造船業に進出し、蔚山に現代造船所(後、現代重工業)を建設した。

1973 年にオイルショックが起こると、オイル・マネーで潤う中東の建設工事に進出して外貨獲得に貢献した。1976 年に受注したサウジアラビアのジュペール産業港海上タンカーターミナルは世界的にも知られている。鄭周永の手法は全く手がけたことのない事業でもまず安値で受注を獲得し、方法は後から考えるというものだった。当時の朴大統領と同じく「なせばなる」(ハミョン、デンダ)の精神であった。

この間、現代自動車、現代建設、現代重工業、現代鋼管など現代グループの各社を次々に創業している。「1 万 5000 トン級の経験しかないのに 30 万トン級の船を受注した。それから日本の K 造船に研修員を送り込み設計図から道具まで盗んだ。盗んだ総量はコンテナ 2 台分になった」[1]という、不法もいとわない強引な手法で成長。韓国経済の躍進とともに 1980 年代には造船が隆盛を迎え、現代重工業の造船所がある蔚山は現代グループの城下町となった。この頃、現代自動車は日本の三菱自動車と提携して自動車生産を本格化した。こうして鄭周永は裸一貫から一代にして韓国最大の財閥オーナーとなった。またこれら企業の株式を寄贈して峨山財団を設立し、大規模な福祉事業も行うようになった。